

第9回防災文化講演会を気仙沼市で開催しました(2015/12/19)

テーマ：企業防災

場所：気仙沼「海の市」2F コミュニティ・スペース（宮城県気仙沼市）

12月19日（土）午後、気仙沼市「海の市」にて、「大災害時の水産業の事業継続・早期復旧を考える」と題し、第9回防災文化講演会を開催しました（主催：災害科学国際研究所，共催：国立大学協会，後援：気仙沼市）。まず，当研究所の丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）が事業継続計画（BCP）に関して「大災害時の水産業の事業継続・早期復旧のポイント」と題し，東日本大震災の被災企業の具体的な対応事例を交え，水産加工業の簡易なBCPモデル様式案も配布しながら講演を行いました。

続いて，水産業に関わる4名の有識者をお招きし，「東日本大震災から水産業はどのように事業復旧したのか」について，被災直後から今日までの経験，復興の課題，ご意見等についてご講演いただきました。講演者は，沿岸漁業の立場からは畠山政則氏（宮城県漁業協同組合経営管理委員会委員兼唐桑支所運営委員委員長），水産加工業の立場からは足利宗洋氏（㈱足利本店社長，気仙沼魚河岸組合長），運送業の立場からは臼井真人氏（㈱臼真倉庫社長，宮城県トラック協会気仙沼支部長），行政の立場からは及川茂氏（宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部長）にお願いしました。

講演に続き，丸谷教授を司会にご登壇いただいた4名の方々と「大災害時の水産業の事業継続・早期復旧のための教訓と課題」をテーマに意見交換会を行いました。この場では登壇者のみならず，来場者の方々からも多くの質問，意見が出され，活発な議論が行われました。講演会には地域の漁業関係者や行政関係者など約40名に参加いただきました。

災害科学国際研究所では，本研究所が取り組む災害科学研究の成果や，防災・減災に関する情報を発信するため，「防災文化講演会」を継続的に開催してきました。今後も，情報発信とともに地域の皆様と災害への備えを考えて参ります。



講演する丸谷浩明教授



意見交換会の様子

右から丸谷教授，畠山氏，足利氏，臼井氏，及川氏